戲作者考

全

特別
イ4
696
31

早稲田文庫

小寺蔵
玉晁文庫

特
イ4
696
31

小野の隨通ハ年 世にゐまあらたむる二千代余ニ及

しこし詳ならハ藤原家要が小篁能筆なりしハ塩川右衛門

が後喬なり 詳ハ書伝ニ揚けし也然るにといへども又

楷の泰山が其のことをいへる隨筆ニも中将の古道の

妙ハ室町東山殿ニ従ひし人にしてあれ其女ハ生国一関の

といふ人の妻となりて信州松代へ行後に女をと

もなひて参る程しかしとて逆の人を出し旅にて

松本へ下る道すがら姨捨山の麓にて行あひつゝ

逆の縁なりける以て其ハ是より五月の七八十才にて遂に

ハ姨捨山を出でゝ其しく庵しる 名所の事なり 此後也

べくもあり世の中をかしき風にいふは[illegible]と見えて遊里めく

山ハいとはしられて二十将[illegible]のおは

娘子の本ハ入れし名とあるにこそ（まかあれ）

とよみし由を史記號縣母而曾子不入若邑朝

哥墨子回車とあるを思ひよせたるなるべし　近将ハ心の

よみ婦人をいへるなるべし　此書の始末辞に記もしとの

枕代の長とあるを寶君和尚讃せし何用のなきなり

古同伝ふる宴東にて七千石ととりし別屋住の由なり

いへり　日尾荊山先生の藏に威通女傳と題せる草子ありて娘子山の月ゝ[illegible]屏風とともに見ゆいつくの山なるか人の[illegible]回りなるにし見えず猪母の里の事[illegible]娘子の山といへるも里の名は車と人もよろしとあれ　これハ享保五年のものなり其威通女行年六十九歳の時のすさびなりけれバ楮の筆が洗ひ[illegible]

古今秘抄といふ書の中ハ小町かことハ淡海武蔵のおとら[illegible]

[illegible]の妻なりける人の婦を折り[illegible]

婦をいふなり娘を連て家を出て再びかへらず[illegible]

彰と東川娘子（[illegible]）維書の女の伝[illegible]

緑踏踏娘の事を書きし伝桜枝[illegible]

[illegible]語[illegible]娘子語の[illegible]あり女中の

伝[illegible]文関の[illegible]世時人

[illegible]名[illegible]信長の[illegible]

[illegible]男の方へ[illegible]

毎と[illegible]◆義[illegible]年も長[illegible]大[illegible]

女[illegible]小野[illegible]若ハ通[illegible]

墓所一覧に
小野於通号[illegible]
金杉[illegible]
不知没年

太閤秀吉公の政所[illegible]に仕ふ（女房と云）なりしとぞ　（或人云[illegible]）

と政所は[illegible]子[illegible]豊臣秀吉公[illegible]始信長公に

仕へ後太閤秀吉公にも仕へしとあるもいかゞあるべし

西[illegible]秀吉公の侍女[illegible]の[illegible]八間

御宗家の[illegible]筆役とせし女後は[illegible]にも上られ

世の[illegible]あり[illegible]おつう[illegible]の[illegible]古里[illegible]

小世の[illegible]書庫と[illegible]

龍心の[illegible]清[illegible]

或人の弟子[illegible]金杉新[illegible]

[illegible]

[illegible]

川[illegible]雑談に云（編者不詳）小野の於通は[illegible]秀次の女の年

美[illegible]或は太閤秀吉公の侍女[illegible]織田信長

の侍女[illegible]云何れも[illegible]二代[illegible]

故[illegible]百五十石[illegible]

云小野の於通は長沢の松平[illegible]の老臣小野[illegible]が

養女なりし[illegible]父は松平[illegible]の老臣長沢[illegible]者

の女にして[illegible]二十[illegible]後[illegible]判[illegible]関[illegible]

[illegible]塩川[illegible]

[illegible]此塩川は[illegible]女[illegible]男[illegible]

生[illegible]塩川[illegible]関[illegible]

[illegible]一女子を生し後[illegible]離

別[illegible]女子を[illegible]連[illegible]女[illegible]

後光明院の女御新上東門院の　即[illegible]仕[illegible]後

門院[illegible]秀頼[illegible]

東福門院[illegible]仕[illegible]金子[illegible]百人扶持[illegible]

文学ニ達し能書ニ加へられ御かく人々も是を寵愛有て又万葉ニ
長して秀忠　川殿御居の〱　参列し気儘里淡路陽
姫の乃ミと十二歳の後名を又作り澤住格段小関白大将と
生まれ給ヒを執り二十才の後ハ生田家ニ上落なし時縁
ありて男子を設け勘由信説とミ二十毎（如と其の）後江戸ニ
来り稲葉家投藝を傳へ二十石と給ひ後淡路守院
と号し其の能ハ秀ノ能書ニ文章行の道ニ好みけりと云
望海無義云（論者未詳）　小北の方つきて八常陸水戸の城主
武田常陸介信吉の家臣小北ト稲葉と云者の妾
二十始関白秀次公の御家人塩川志摩守と云ものゝ
妻と成しが死別の後　十六歳の城へ入又浪士の時

御分際ニ從ひ御供致し秀忠公の御代ニ家の御用相勤る
陽光院の女御新上東門院様御代に　時ニ御貴人にあげられ
京に参りて仕へまいらせ其後御服を賜しかバ東福門院様へ御
取次参り御手紙参り召し百人扶持二百石の御分
宛給ハりしが　伴ひ入れが男子父と共に播州姫路ニ住しが
姫路ニ至る時召出して　禄を賜り　塩川喜三郎
と云し外に女子有り人の嫁となりしが後淡路御用に相勤る
住し時相伴して老ひても至り仕へ老ひて又江戸国
上洛の時此女も妾として来り御服を賜り京都に来れり
男子有ハ人の扶持として江戸に住し春日局に親しく
雅成る者にて稲葉家の吹挙により

あつまりよみかはして世に数十巻の

後に十二段の歌の文句を作る中にも又兵衛門院様の作を

第一とす十二段の文句を述作して先達をして[illegible]といふ女の事と

編立しより[illegible]を語る事を始めし六條[illegible]殿の抄

座頭沢住検校某といふ者章句を作り小関[illegible]を

[illegible]入合すに通[illegible]を[illegible]

等彼始ハ[illegible]仁[illegible]先を好む者

[illegible]

南水漫遊といふ随筆にも云（文化の比の筆記撰者未詳）阿通自筆の

十二段の本ハ大坂天満[illegible]所蔵せしを元禄の[illegible]

焼失の[illegible]通ハ津の国長柄の里より[illegible]

往昔より来和字を好まれし数首の[illegible]も世の人

の所知れる所ハ

[illegible]思ふも[illegible]好みし青[illegible]の色

元和二年三月五日年八十余りにて[illegible]

[illegible]おつうの櫛といひし[illegible]

櫛ハ[illegible]の内陣の[illegible]付物[illegible]

文[illegible]（按ずるに新上東門院ハ後陽成帝の御母[illegible]）

（雑説の説[illegible]後光明院女御[illegible]）

還魂紙料（柳亭種彦撰　文政九丙戌年）

浄瑠璃節ハ織田某の侍女小野お通[illegible]つくれる

十三夜ハ都にてハ雖とも都ならてハしらす　十三夜ハ都にていふ
歌ハさしおくへし俳諧の例を取りていはゝ鄙都の人に
こそ知れハ　守武千句（天文九年の吟ニ慶安の印本有　古写本にも参考す）
前句　いとゝ九十夜の月の枕つきの
附句　浄瑠璃をうたれしやしの秋
又附　あかしもや時ならし若竹ぬ
是ハ天文九年のころなるへし　当時浄瑠璃流行し
申ハ俳諧の句につくりしなるへし　其俳集ハ天文之年
の出来し此千句の時代より九十年前　浄瑠璃と云俗女の
名をありしせん浄瑠璃と云物　初雅の者と思へ
後しかたへ思ひ遣て長仲篇を思ひ折しも又其の

証とはなる
紫屋軒宗長日記　享禄四年の條　八月十五日夜九月十
三夜ハ都にいひしも月あかく　昔とゝもに心をこゝろ　都の男
都の女も月見るとて文をふみ　八句有條の老尼婦女ものなといひ
目出たき都人ひとりひとり名月をしのひ思ひ　南の縁の柱
ところより春と思ふもたちなから　けふも思ひなから　範車
老人　互に住吉のそめおくへき其子の者ら
今宵月まゐらすへきに老たるなぬ口らの一盃と知れ
旅宿たれかれ一両輩人つとひ小座敷の
あつまり浄瑠璃をうたひ其一盃をのむ
或ハかはらぬ語りつかれのしらぬあつかれ
世のなかにおもしろく菊のわらひけて
たつ浮世をたのしむ世ま表今宵月の友なかりける

一ト座おこなひし[illegible]座にて[illegible]記でなく
さかし　[illegible]
元禄も[illegible]して[illegible]の月より
此頃駿河国府中[illegible]小座敷のうち[illegible]　書籍[illegible]当時[illegible]ある
[illegible]
見へし　浄瑠璃ハ始めて[illegible]ありしと[illegible]
宝永四年ハ何某が生れて前年[illegible]何某が
[illegible]と云説の非なることを知て
[illegible]又元年三月八日[illegible]と二根集[illegible]
三河刑補松鶴　林自見[illegible]　吉田[illegible]
家里[illegible]
小里通女

近松門左衛門信盛　平安堂　巣林子　不移山人　外等の号有（難波土産ヲ叙所九ノ中ニ一文字を書せり）
長門萩の産にして同藩杉森某の男なり（西花園漫録ニハ越前の人）
幼少して肥前唐津近松寺に在学し（或近江に生るとも　近松寺の坊とも）後
京師に出て武堂上方に仕へありしかど爵六位をうけ（錦小路　杉庸）
（朝倉の土五記ニ　一条禅閤ニ仕へしと　又河原柳原浄性寺境内ニ建あり[illegible]近松[illegible]事[illegible]硯石をも一条禅閤兼良公より伝ふる）
（[illegible]兼良公より文明年中東[illegible]近松氏が今の元禄乃[illegible]子孫なるやらん[illegible]）
項仕官を退て浪人し近松門と名のり若年より歌舞妓
芝居都万太夫（万太夫か芝居[illegible]大坂[illegible]世[illegible]）座の後の[illegible]の[illegible]
（古今役者大全[illegible]）又宇治加賀掾井上播磨掾抔が為ニ浄瑠璃を
作る（世俗[illegible]）其後元禄三年庚午四月

京都の浪人なり竹本筑後掾に浄瑠璃数多

著作述して其名を世にしられし故（貞享二年宇治は筑後掾義太夫の時に受領して作りし）（京都の大坂へ下りしは出世景清と云を作りし後也 元禄十六年作りし世に名をしられ）

元より和漢の書籍を学び博識にして古今の時世の人情

を察し人情を穿ちて百餘篇の浄瑠璃を作る

中にも國姓爺合戦 雪女五枚羽子板 等数々作りしが

ことに妙を得しとぞ（國姓爺の上るりは竹本座の芝居にて正徳五年未十一月より三年続十七ヶ月讀しといふ）

享保九年甲辰十一月廿一日七十二歳にて身まかりぬ

大坂八丁目寺町法妙寺に葬る辞世の文左のごとし

（我身は世を去し辞世 是となる）

代々甲冑の家に生れながら武林を離れ三槐九卿に仕へ

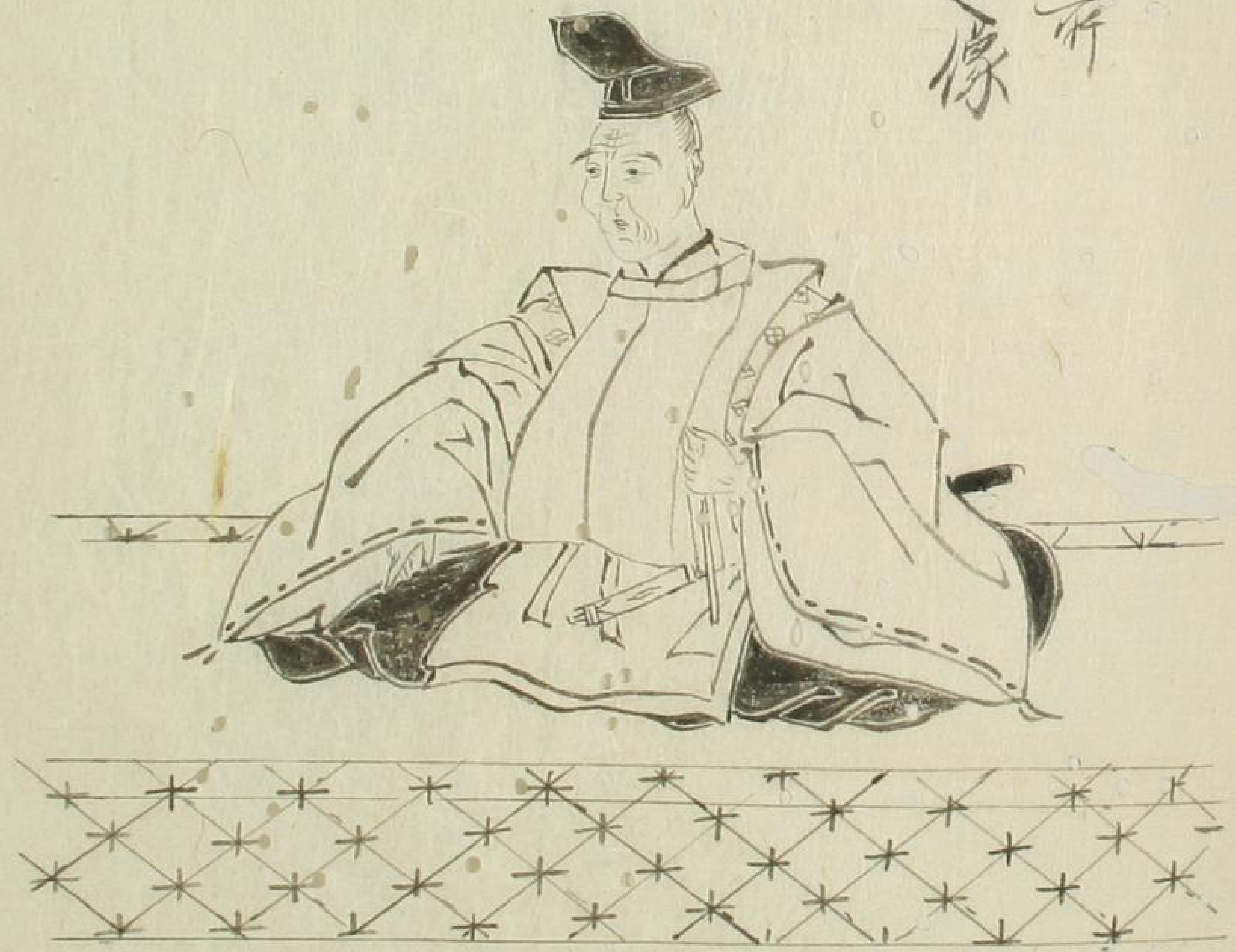
勝餘小録に載る所

近松門左衛門之像

此手紙は建仁寺

松原仲久氏の

蔵なりとぞ



誠之器大しきこと寸爵なく市井に濫りに売買へ
却て隠に似て隠にあらず賢に似て賢ならずとの
者なり何をか知らん世すまひとの度の太和なりて
ある道と妓戯雑藝滑稽の類なく柳枝年なけれ
ばまた才筆なけれども一生を暮ちらし今の沸り
いかにもし思ひ人生の一大事ハ一字書きも知
仙惑すに終に心の恥をかりの七十餘りの光陰
おりしハおびつゝありし家世治年如とし辞世
とて人あるハ
其し辞世去月と物も二千後年
のまにまさるゝの外しりたも

享保九年中冬十五日
入寂若阿彌陀院穆矣白一旦足居士
不侯終焉期豫自記春秋七十二才□□
のこれかハ思ひもあらず情もぬけふたありしおもひくるまつまりけり

川左衛門の先ハ相国寺の宗長老方ハ一抱子（右為竹子とも云）
右醫ゆしりて京都に住ミて妹ハ錦小路にて（一抱子後通称）長し
と後ふ家作て居女に右言し
家つゝ 近松門左衛門と成り
さるゆゑ今ハ安楽国姓爺初も二千後も是にあらし（油煙斎 貞柳）
印ゟ周慢にて近松が遺せる所の硯も後近松半二と作る
の叢書に漂して事取れ近而義發勸懲の元字を記せて硯ハ
是ハ笑ひ雑傳奇の席に昔人と作傳奇と也事取流近而
云云と云鉛を入れて近書は小説と心とせしめ見かりくきする
此人ハ心のまゝ事録の本を笑ひの約にありとくと

南水漫遊ニ云 近松門左衛門の始俗称を杉森平馬といふ
肥前唐津近松寺ニ入て僧と成義門と号し 後還俗して
[illegible]廿一歳の年より京ニ来り 元生化度の剃髪[illegible]
大儒[illegible]し[illegible]京都ニ在て浪籍の身園[illegible]一抱子が
[illegible]して門左衛門と改名す[illegible]
市職と[illegible]せりとぞ 門左衛門と改名の[illegible]近松か[illegible]
刑[illegible]写山先生[illegible]して近松か[illegible]の例[illegible]
[illegible]江戸[illegible]の碑文[illegible]せり[illegible]
[illegible]墳墓八[illegible]大坂[illegible]
修羅場文句辞注難皮[illegible]興[illegible]穂積以貫翁
近松か像ニ題するの辞ニ云

見性却清醇　李[illegible]擬狀[illegible]
春温渾満腔　空眼特洪鈞
句輪[illegible]妙　[illegible]戯綺語神
[illegible]休[illegible]蝶　筆隠特相親

其頃老人ゟ編の[illegible]草 南水漫録ニ云 文人と称して近松か
文勢[illegible]の二書ニ多し 元禄十六年未
三月[illegible]百人上臈といふ[illegible]道[illegible]
[illegible]蝶の羽[illegible]の雨の氣色を
[illegible]雪ハ花[illegible]書[illegible]是[illegible]園機活法雪の
鄭[illegible]鶴毛蝶[illegible]四字を出[illegible]文卿か
雪を詠せし詩を出せり 蝶ハ遺翁翅翼輕難拾鶴墜霜毛散
末轉[illegible]と和語[illegible]せり[illegible]才能と以[illegible]和字と訓
[illegible]遊牧[illegible]
[illegible]橘庵漫筆[illegible]或時竹田出雲[illegible]
[illegible]近松[illegible]浪屋辰五郎か[illegible]穂積以貫[illegible]
[illegible]草稿[illegible]大名の[illegible]
[illegible]書[illegible]人の[illegible]
[illegible]似合[illegible]全の冠[illegible]

次に志やくハ[illegible]にあしく[illegible]と書つゞけ[illegible]名
[illegible]文二享保五年の冬 近松門左衛門作とし
[illegible]の網島の[illegible]時代に大[illegible]
[illegible]の大長[illegible]何年迄も大[illegible]
[illegible]一日の[illegible]
真[illegible]世人[illegible]
大坂[illegible]加[illegible]鄙[illegible]
[illegible]書[illegible]
流行節[illegible]
[illegible]古[illegible]三[illegible]
[illegible]近松[illegible]
[illegible]尾張[illegible]
[illegible]
[illegible]

音曲猶雑論に筑後掾の画像の讃

堪能の人の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
竹本筑後掾藤原博教

一 [illegible]
近松門左衛門[illegible]

[illegible]の真[illegible]は 近松門左衛門の代浄瑠璃竹本（北条時頼記[illegible]）
文句の[illegible]
[illegible]
近松[illegible]
[illegible]道の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]文の[illegible]

下り坂の[illegible]関[illegible]といふ[illegible]也 文[illegible]書 式人[illegible]

[illegible]の[illegible]に[illegible]の[illegible]人の[illegible]

[illegible]

二[illegible] [illegible] 三間[illegible]金二百[illegible]

[illegible] 伯父[illegible] 郷と[illegible]

三巻[illegible] 近松の作 百日曽我[illegible]三言[illegible]

[illegible]の[illegible] 竜[illegible]の[illegible]

[illegible]

嗚呼[illegible] [illegible]近松[illegible]安家[illegible]

[illegible]

[illegible] 武将[illegible]

[illegible]金の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]金の[illegible]

[illegible]人[illegible]

いろは浄瑠璃義太夫[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源氏集　（天保八年）
[illegible]書籍古今[illegible]　[illegible]
[illegible]近[illegible]の[illegible]　同
[illegible]　[illegible]

国性爺合戦
淀鯉出世滝徳
（紙屋治兵衛／きのくにや小春）心中天の網島
天智天皇
日本武尊吾妻鑑
雙生隅田川
[illegible]
山崎与次兵衛寿の門松
大経師昔暦
日本振袖始
弘徽殿鵜羽産家
吉野都女楠

北条時頼記
丹波与作待夜の小室節
本朝三国志
曽我扇八景
相模入道千疋犬
天神記
[illegible]
嵯峨天皇甘露雨
鑓の権三重帷子
酒呑童子枕言葉
関八州繋馬
最明寺殿百人上﨟

持統天皇歌軍法

用明天王職人鑑

竹田出雲掾清定　号千前軒

宝永二年酉三月より竹田出雲と名乗座元と成　享保の比より

自ら浄瑠璃を作る

元祖竹田出雲ハ根本あハの阿波の産にして江戸ニ住し [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

〔操芝居浪花芝居〕より極上上吉　竹田出雲と云ふ [illegible]

宝文二壬年 [illegible] 竹田出雲 [illegible]

竹田小出雲　二千前軒門人

長谷川千四　和州長谷寺の僧帰俗して作者となる
享保のはじめの人也　貞柳ヶ弟の家をつたへ　後に作者ニ千四
先年ハ三十五歳といふ　又よりの名とこそて千四の
たゞひ死去と
聞ゆる

寂光のうやさハ行てこそ[illegible]水に老を作る法桜[illegible]よ　貞柳

三好松洛　医師にして千前軒門人　出世をこと今代の称名し　明和八卯年播州山の隠居にて卒　松洛七十七歳とも

錦文流　宝永の比数作多し　西霊門人作浄瑠璃をもよし　文錦項とも号す　歴[illegible]作多く

文耕堂　初松田和吉　千前軒門人

吉田冠子　千前軒門人　人形つかひ吉田文三郎と云是也　初代文三郎[illegible]吉田文吾の子也

近松半二　医師の倅にて千前軒門人　宝暦以後作多く　穂積以貫か子

竹本三郎兵衛　竹本筑後掾の倅也

中村阿契　始関仙

松田ばく　竹田出雲弟子　草市後ニ漆と云

並木千柳

二歩堂（左新）

浅田可啓

八民平七

北窓後一　千前軒門人

竹田因伯門

竹田平七（三筑）

竹田外記

竹田和泉

竹田[illegible]

中川半平

直松亭鯉　千前門人

竹田何足

並木永浦

竹古九

梅素菊師

一来堂

竹田文之

北脇素文

菅源七

青江堂

紀海音　榎並貞義ト云俗称喜右衛門後善八ト改油烟斎貞柳ノ弟ナリ和州榎本寺ノ宗化ト童名ヲ節ト云僧侶トナリ医ヲ業トシテ狂俳師ノ門ニ入ル後ニ二字名トモ号ス同ト云紀海音トモ云浄るりの作者海音ト云元文元辰ノ其後浄瑠璃ヲ斂シ寛保二年戌十月四日（一説ニ延享四年七月廿六日）行年八十才ニテ没ス墓ハ八丁目寺町宝樹寺ニ葬ル

西澤一風

田中千柳

為永太郎兵衛　號二千蝶初竹田出雲ノ門人

安田蛙文　名ハ馬家ヨリ仕入シ人也

安田蛙桂

並木宗輔　一市中庵ト号ス初僧ニテ宗輔ト云後僧ヲヤメテ千柳ト改並木千柳ト号ス松屋ト称ス市

[illegible]様

[illegible]

大[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中将之[illegible]

[illegible]

[illegible]

（初め松田八宗輔と号名をゆるし後今邦に改　寛延二年九月没す）

並木丈輔　北の新地の茶屋なり

同　良和

同　素柳

並木五瓶　（寛政八年十二月　[illegible]の[illegible]の作し　辞世）

村上嘉助

豊竹応律　若竹文[illegible]甚吉と云

豊竹[illegible]珠年

浅田一鳥　安永二年と云[illegible]の作し

浪岡橘平

同　鯨児

同　[illegible]

七才子　岡本[illegible]一と云　医師也

若竹笛躬　若竹[illegible]左衛門と云[illegible]形もありし

二代目笛躬　[illegible]　[illegible]

近松東南　東南伊助と云　孝[illegible]と云[illegible]子　（[illegible]段二[illegible]の[illegible]し）

菅専助　（[illegible]医師の[illegible]　[illegible]文）

桜縁西吟　[illegible]の人　西[illegible]門人

寿出堂　（[illegible]医師也　[illegible]左衛門　笛十）

八民平七　[illegible]

紀の上太郎　三井[illegible]　赤栗　八百文　仙[illegible]

男徳斎　[illegible]文と云上[illegible]

榮之音年　是ゟ端ノ方は[illegible]

川霧　[illegible]長崎七丁目分銅屋[illegible]四男[illegible]と云帯屋[illegible]

[illegible]法[illegible]ノ人なし

中村萬眠　難波[illegible]代中村屋[illegible]（[illegible]）

道枝[illegible]　[illegible]柳[illegible]と云後改

司馬芝叟　独[illegible]庵の作し

梅の下風　[illegible]　湖水[illegible]（[illegible]）

岩田[illegible]

柴葉軒

豊春助

戸川[illegible]鱗

菓蔭[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]山の

[illegible]文八[illegible]

の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]長作[illegible]　[illegible]根[illegible]

○見外　上つゝつ候ゝゝか

幸の事

御出なり　[illegible]

[illegible]中　式中章

於白豆出　[illegible]

五ヶ所 [illegible]

連句第二

[illegible]

一二之軒

八刻書

三十字 [illegible]

○擬下石己

又本年

関ゝゝ玉

北条 [illegible]

[illegible]

中 [illegible]

○四方之人府悦之
草家熱熱處

南谷文集

○松寿軒西鶴ハ井原氏浪花鎗屋町ニ住せり
俳諧ヲ梅翁宗因ニ学ひて矢数の誉を得て自ら
難波俳林ニ獨歩す元禄六癸酉年八月十日
没して行年五十二歳大坂八町目寺町誓願寺ニ
葬る法号

仙皓西鶴居士

辞世

人間五拾年の究りそれさへ
我にハあまりたるにましてや

浮世の月見過しにけり末二年

住吉秘傳抄ニ西鶴ハ若年の比大坂下所足袋屋ニ
奉公して銀廿五匁借して欠落之貴據と云

実もよび文字を大田南畝ハいつくの風し我と得らん

教訓ニ親方ニ教られし通り歌舞せしいせ

○風来山人 又号天竺浪人（福内鬼外）（号紙鳶堂）皆諢名なり名ハ

国倫字子彝鳩渓ともいふ讃州志度の浦の

人也宝暦の末よりして江戸に出て聖堂に

寓居して官医田村元雄と倶に物産の学をと

[illegible]火浣布と老人いふもの出勤免孝行[illegible]色

安藝守殿へつかへし公にまり

上覧又後神田白壁町の裏に住居す又以前年

新[illegible]移[illegible]文柳原細川二葉屋敷[illegible]所居

移し北瀬川は樹を絵馬絵所の所家に移し明和

七年屋敷の頃長崎へ行大通詞吉雄幸[illegible]

家をかりしたる阿蘭陀本草を見のしエレキテル

セイテイといへる奇器人の身の火をとり病をとる物なり

こころと世の者にしるし[illegible]鳴霊世[illegible]

浩号
昊雄智見

或ハ伽羅の櫛 銀も象牙の芸も人気をとると作りあられハ
金唐革を作りて 常の革の薄きを 十一月廿一日の夜発狂
してハ人を殺し（米屋の某を殺すといふ）獄屋に下り 同十二月
十八日病て獄中に死す 死骸を 後（浅草橋場）
總泉寺に葬る 十大文 杉田玄白（碑銘）
私財を以て墓碑を建て表にあらわせるの
書下行しく海内に多く 或ハ元名を
備へて 化するものもあり 一二 猶
のもの記

物類品隲
火浣布畧説
風流志道軒傳
長枕褥合戰 一冊

萬國圖
根南志具佐（根なし草） 五
根無草後篇 五
菩提樹の弁 一冊

土平傳
細見菊の園 一冊横本
○痿陰隠逸傳 一冊小本
○放屁論 〃
○里のをだ巻 〃
乱菊穴探 小本一冊
虚實山師辨 五冊

是より浄瑠理本
神霊矢口渡
弓勢智勇湊
御霊新田神徳
前太平記古跡鑑

同三ツ朝 〃
○飛だ噂の評 〃
○放屁論後篇 〃
○天狗髑髏 〃
風來[illegible]文選 〃
秘術五[illegible] 三冊

若くハ
源氏大草帋
桐生源氏
美験宮古川

蜀山人にて狂文 飛花落葉と集めて
飛花落葉 小冊
下谷池の端[illegible]

○二代目風来山人（桜田久保町）初森羅万象　又万象亭　又桂林舎
天竺浪人　或ハ下泉の隠士　天竺老人共云　医を業とし
（二世福内鬼外）蘭学に委し　狂歌の名ハ竹杖為軽と號
森羅万象の名ハ門人七珎万宝に譲る　文化七庚午年
十二月四日物故せし

稗史
田舎芝居
真女意題

二日酔大入盡
福神粋語録

當世導通記

當世野夫論

○二代目万象亭　又森羅亭　初七珎万宝　寶
花押
後森羅万象
森羅亭万象

御存夜討蕎麦

○田螺金魚
虎之巻
一夜千金
妓者呼子鳥
傾城買指南所
妓女皮肉論
同縁帯廓之癖
猫之巻
言告鳥　同二篇廓之桜
鶯園花櫻帳
山荘太夫名汐　共二冊
香志人全傳　青楼草　共四冊

○梅暮里谷峨
傾城買二筋道　四冊
同二篇宵月之程
白狐通
甲子夜話
契情買手夢之汗
金一花兵衛　外四冊
自撰小世雪　出
同左氏合篇浪花之縁　共上
後園鶯　五冊
斯波七長臣

○市場通笑ハ二市場氏名ハ寧字子寧号猶雪（道）ハ一本和泉屋と称す小弁二と称す江戸の産にして通油町俗称生涯無妻無子古稀ありして猶矍鑠たる色好む稗史を作る事宝暦安永の際若干巻を著述せし其ハ著せる所の稗史大抵許〻十教論を渉る閲世人教訓の道を家と称せし文化九年壬申年八月廿七日没す享年七十四歳槇市浅草称念寺に葬号法名全心

芝宇田川町ノ桜川慈悲成 和泉町ニ住忠哉

○桜川慈悲成（二代目）芝宇田川町 ト称親鳥 芝之東ノ男 西久保八幡前 八尾大五郎

○振鷺亭

○鳴雪羽白

○虚呂利

○玉月窓秋輔

○夢中山人 本町寝言 芝濱住

○子ふ龜 同私 二人共ニテ一對ナリ 談洲楼依

○戀川春町ハ本姓ハ源氏ハ倉橋名ハ格字ハ壽平狂名酒上不埒ト云松平丹後守家臣也稗史ヲ著述ス又戯曲ヲもよくす寛政元酉年七月七日没ス行年四十六四ツ谷新宿北裏浄覚寺ニ葬ル法号

寂静院廓誉湛水居士

辞世
生涯苦楽　四十六年　即今脱却　浩然帰天

稗史
三幅對紫曽我

○立川談洲楼焉馬（俗称和助）（本所立川ニ住ス）
別号桃栗山人　（俗称　和泉和助）
文政六未年六月二日　七十一歳ニて終し
[illegible]の句
[illegible]自白佛

[illegible]

○馬鹿山人　東垣舎

○成三楼鳳雨

○壮樂外一万里

[illegible]

○伊庭可笑ハ猪兵八と称して後ニ稗史ノ作者ニ着ク
天明二年六月三日没ス行年二十七歳
四谷大木戸理性寺ニ葬ル法号
雲如院要山居士

○観水堂丈阿　自筆自作

○田中益信　自画作

○千差万別

○烟草輔

[illegible]

○蓬莱山人亀遊

○桜川岸田杜芳

○壁前耳九年坊

○南陀伽紫蘭

○和祥

○録山人⚅信普

奢長（ヒ）茶大石鳴表

天明年田沼之頃へ
絶板ト云

天下一面鏡梅鉢

作者の名ハ前にしるさすといへとも
此外之御咎ニて此書絶板被仰付ト云

○神田庵あつ丸　神田鍋町ニ住ス

文政十二丑年十月死　辞世

目ねむらる出る夜明の月の けさよりもちらりくろく雲のあいさ

○道陀楼前喜三二

槿（キン）堂守人　宝田郎

○蜀山人　南畝　（寝惚　子耜　通称直次郎）（文政六年四月六日七十五歳ニ而卒　名覃　狂歌）（白山南畝　[illegible]　杏華園　[illegible]年[illegible]）

○朱楽菅江（[illegible]之　狂歌師）

○恋川好町　又葛葉亭　四方歌垣真顔　狂歌堂（数寄屋河岸）（鹿都部）
文政十二年六月六日七十七才　小川[illegible]
俳諧歌場　[illegible]　[illegible]梅阿弥　[illegible]
小石川　[illegible]　光[illegible]

日本一二凝鑑
月宵部[illegible]

揚屋町伊勢屋　豆腐屋

○京山先醒の二字傳先生の令弟に彫出し詩画の
段挟て又褐を挿みて書す先生姓ハ山岸
名ハ凌亮字の鐵梅一字京山山東と号す
蔵版の彼の件のこと重宝とす鐵筆にとる
[illegible]
方半いにしへより刻摺第一術
事へ折 力巻しつ 浮文 五十三歳 派
右ハ就予諸事得の旅あり

○唐来三和　文東来去亭

廻會翻案子錢獨樂
和唐孫解

三教色
鶴亭主人 睡一心令

○京山 京伝弟 昔[illegible]凌寒 京[illegible]鐵梅一

京山 又[illegible]作 岩[illegible]所 百樹

[illegible]の[illegible]

二[illegible]大一 カラリ

[illegible]

[illegible]

○唐来三和 文東来[illegible]亭

廻會親子錢獨楽

和唐珍解

三教色 （[illegible]）

人鑑一心命

○[illegible]亭中 秋冬[illegible]

○東海子 ~~靜也~~

[illegible]七れの[illegible]

有 文政二年五月下旬 [illegible]

一両詩の碑 て生ゑ 流水邨 有風更し

○門[illegible]

[illegible]之御[illegible]末[illegible]

那星[illegible]南里

○京[illegible]

○無[illegible]

○芝　全三丈

寛政六甲寅年秋

渋人

碑文

十四銅城腹之内
おちがひたらふ紅
をかの下長ね流
白髭明神御渡申

大悲の主ハ大佛御記
女郎の郷と五子の前文字
わかさんふに在川

志水燕十
游都酒美選
深宵雅話

○明誠堂亀山人（平沢）　又手柄岡持　喜三二
（文化十年五月廿日没　浄心年）
娼妃地理記（文武二道万石通）
柳巷化言

○竹塚翁東子
○けいこう　回
○樹下石上
○竹杖山人

○徳永素秋

○南杣笑楚満人　文化四　二月九日　心光院

○園清之丞　昔之出雲也今之玉也化（?）

○曲亭馬琴（伊勢町中坂下ニ住ス）名解　号蓑笠　玄同

著作堂　雕窩　信天翁

瀧澤清右衛門

後薙髪して篁民と改　天保ノ期ニ至ル

嘉永元戊申年十一月六日八十二歳ニ止ル　小石川

茗荷谷深光寺ニ葬

著作堂隠誉蓑笠居士

辞世

世の中の役をのかれてもとのまゝ

かへすそあめとつちの人形

耳食（[illegible]肥前守殿）

山東京傳ニて天明寛政の比草双紙読本抔を綴り

又ハ新風流の[illegible]入[illegible]

世の人是ても集ニ二十三丹と称し由専早くまて若気し
書しせ流仲せし早気の板多くにて二十二號
二舟代も芳ひとこつしが集の出来と称して去家
若葉志妻之称しても而も新作の生かゐ蔵の
放南とのゐて揚枝房と称しては青れ醫師の
方へ寄宿しそ葉を刻て剃落家と是屋へ
役枝揚枝房など二疹治ゐしゐるがこんとうて七振る者
由之んに二世人の気之部しれ才ゐてと鳳又宗仙
云る代郷に芳めり又八二十歳の頃二疹治ゐしりるが
揚枝房も楊文持病の放出南花きりて右醫
家かし是をとてまゐ加ゐし立右しが京伝が
許りとが宮府しても手傳し二京傳二十歳と嫌て
いて世話ゐしても今ハ総画甲子と家の一生也がし

天保四巳年
四ツ谷ヒナドノ
早十日谷ノ
上ヘ家移

保養安清（年）のとて赤しあゐと高く二十七江戸
気ゐて机早ゐ起ゐても筆をとらて八墨者
ゐ於所ゐとも利ゐらし今ハ身持を力とゐしし
安しと思しりつし人の後の如
馬琴ノ官板二十年み其次刊行は浮名集二部を続の今五十二年の
刊行の二ろみ未脱稿

南総里見八犬傳

（にて〳〵）

朝夷巡嶋記

（ゐて〳〵）

椿説弓張月 三十九 北斎

近世美少年録

開巻驚奇侠客傳

青砥藤綱摸稜案 十 北斎

皿皿郷談 六 北斎

松染情史秋七草 六 豊広

墨田川梅柳新書 北斎

四天王剿盗異録 豊国

新累解脱物語 北斎

夢想兵衛胡蝶物語 十

糸櫻春蝶奇縁 重信

雲妙間雨夜月 六 豊広

三七全傳南柯夢 前後十四冊 北斎

占夢南柯後記

松浦佐用媛石魂録 十二 豊広 後 英泉

旬殿實々記 十 豊広

頼豪阿闍梨恠鼠傳 十 北斎

常夏草紙 五 春亭

質屋之庫

美濃舊衣八丈綺談 北馬

俊寛嶋物語 十 豊広

月氷奇縁　五
石言遺響　六　（小本）
敵討裏見葛葉　五　（小本）
勧善つね世物語　（小本）
椀久松山物語
水滸画伝
苅萱後傳玉櫛笥
盆石皿山記　五
敵討誰也行燈
再榮（かへりざき）花月譚

三國一夜物語　五
標註園の雪　（小本）
稚枝鳩　（五冊）
（括頭巾）縮緬帋子
刀筆青砥石文
巷談坡堤庵
枕石夜話
小説比翼文

今戸土産女西行
春之駒象棊周道
花園子喰家物語
庭荘子珎物茶話
胴人形肢體機関
千代褚良著聞集
料理茶話即席話
御慰忠臣蔵之攷
童蒙話赤本事始
敵討身代若衆
同　岬保呂羅
同　昌號壯夫

六冊懸徳用草紙
鼻下長生薬
匂全伽羅柴冊
北國順禮縁起
鳥籠山鸚鵡助剣
千葉館世継雑談
相繪馬之癡漢高名在
女文字五字屋金
漢楚賽擬選軍談
同　皷之瀧
同　雑嘆寐物語
同　白鳥関

敵討二人長兵衛
同　獺狂夫
加古川本草綱目
敵討寶八丈
籠ハ山成竹取物語
月都大内鏡
大和荘子蝶胥笄
松の月新刀明鑑
鎮ハ城水滸傳
福寿海無量品玉
金毘羅船利生纜
小雲雪夜蔵松禄
女人柏節言

同　児手柏
優簑阿姑射之松
青由橋河原葉夢
赫奕姫竹節話説
代夜待白女辻占
月雪吉阿出文外
戯子名所圖會
松梅木三階奇談
風俗金魚傳
牽牛織女願糸竹
弘法大師誓筆法
小鍋丸手石入船
縁結文定紋

驛路鈴與作春駒
武者合天狗俳諧
鯨魚尺品革羽織
荒山東天狗鼻柱
安倍清兵衛一代八卦
山東一風煙管簿
[illegible]六三亥月
妙黄粉殺道成寺（文化二）
新編金瓶梅
宮戸川三社網舟
信田妹手白猿曳
初[illegible]間手本代記
備前擂盆一代記

武者修行木斎傳
梅桜對姉妹
蘆名辻寒兒仇討
相馬内裡後雛棚
新所十二武蔵坊
曲亭一風京傳張
女夫織玉川晒布
己成金男道成寺
十三鐘孝子績
島村蟹湊仇討
四遍摺心学草帋
記ぞり山後日轉
[illegible]異孫目黒色揚

百物語長者万燈

殺生石後日怪談

照子池浮名写絵

世諺口紺屋雛形

㊞大黒搗黄金柱礎

㊞（花咲附作　稲栽新）種蒔三世相

姫万両長者鉢木

襲褄辻花染

（二代巡礼　再度霊験）奉手孔府杜言　文化二

㊞鼠子婚禮塵劫記

㊞養得竹乳白鳥圖會

（六代目國土帝　進善禰宜）東菖若皐月落際（アツマノハナサツキノチリキハ）

玄同放言
燕石雜誌
花鳥文章

簑笠雨談　後て[illegible]
俳諧歳時記

初称嘉兵衛外山卯

○式亭三馬 四季山人（嘩囉哩樓） 猪牙山人 遊戯堂 本町庵

姓菊池名久徳字太輔 俗西宮太輔 本町

二丁目住薬種舗（初浅草田原町ニ住ス） 行年四十七（文政五年午二月六日卒）

家父ハ豆州八丈嶋菊池茂兵衛男也

為朝大明神祠官菊池壱岐守妾腹の嫡子也

花押 三馬之眼

門人
益亭三七
悪亭三光
古今亭三鳥
徳亭三孝
楽亭三子
三亭春馬

男 式亭小三馬 名徳基（安政 年卒）

稗史

（一人娘二人婿）鷃訓歌字盡（文化乙丑）

（芝全交寄戯作問答）喧嘩来萬八縁起

（略画傳授）無學子馬二度式

（夫ハ南木是ハ噂氣）俠太平記向鉢巻

（心教言語段續）引返譬言幕明

（世話字時代哉）兎茶揃押兵

（式亭増補）紅皿南京焼継
（又焼直鉢冠姫）稗史億説年代記
（彼者行燈是者奉纏）封鎖心鑰匙
天道浮世出星操　寛政六
浪花土産初物語　文化五戊辰
四十八癖
（髪結髪床）名題紙角両個助六
大千世界楽屋探
忠臣蔵偏癡気論
阿古義物語　[illegible]
辰巳婦言
門三集船頭部屋
廓節用

（草庄上梓夢）式亭三馬楽日記
綿温石奇効報条
人間一心覗替繰　寛政十
傾城買談客物語　己未
戯場粋言幕の外　文化三丙寅
（趣向楽屋）忠臣蔵　文化八辛未
客者評判記
人相解狂集
門三集船頭深話
麻疹戯言　享和三
女身三人生酔

早替胸機関
浮世風呂
（無而七癖）酩酊気質
俳優三階興
（[illegible]）腕彫一心命
（[illegible]）腹鞁[illegible]
俳優家例狂言袋
梅精奇談魁草紙
浮世床
好古異癡録
古今百ばか
[illegible]

同四[illegible]追

大千世界楽屋探
戯場訓蒙図彙　享和癸亥
心のおくり
芝全交夢寓書
嘘八百[illegible]一元
人間万事虚誕計
一盃綺言　[illegible]
田舎芝居忠臣蔵
素人狂言紋切形
蔵　[illegible]

○十返舎一九　氏ハ重田　名貞一
天保二己酉年八月七日卒　下谷
善龍寺葬　辞世　時歳六十七（五十六才とも）宝暦十三未年卯より五十六ノ人今
此世をハどりやお暇ニせん香の
ともにつひには　灰左様なら

青楼夜話世謡叙
吉原談語
起筆転語
高内神
せうの雪浪
倡客窺学文　北斎
恵（エビう）良濃梅

歌川豊松斎
門後編
門後縁遊治郎
十　樹彩矢倉焼付
青楼松之月
楚長玉子
遊成郎

落傳義志禅　為着衣裳

清談峯初花　同二編　義丸

風聲玄鶴縁白浪　同二編　英泉

春宵美談朧月夜　同二編　同上

浮世清濁水鏡　同二編　同上

花勝美　為永作

道中膝栗毛　柳二葉　四冊

忠孝身之理行袖

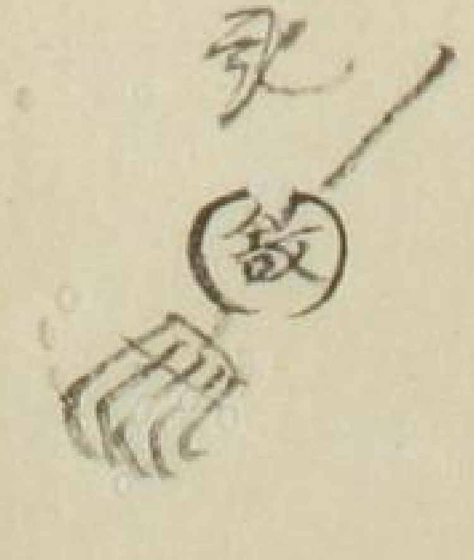
○是ハ二代目一九なん

弘化五年申新板　三ノ序　四面

紫亭米浅草寺吉屋

十返舎一九歌

敬



○柳亭種彦　延丈方新翁　下谷御徒町

高屋彦四郎

天保十三壬寅年七月十九日卒　葬赤坂浄土寺

辞世　芳寛院勇誉心禅居士

散ものに極る秋の柳かな

又　我も秋六十帖の名残かな

柳下亭種員

柳煙亭種久

西本作名

浅間嶽面影草紙

同後編逢州執着譚　[illegible]

阿波の鳴門　少々

近世怪談霜夜星　少々

綟手摺昔木偶　北山寺

勢田橋龍女本地　少々

風俗傳

寛政壬子の春京に居 己丑の夏東山に[illegible]

広居とし 日文庵 庚寅の春 土佐[illegible]

四方の[illegible] [illegible]

○[illegible]丈

雲無[illegible]名流水　其[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○吾芳林玉苑

山無雲[illegible]遊賞一雲州月

○柳[illegible]年[illegible]

[illegible]新譯[illegible]

○振鷺亭

春夏秋冬　初編　豊国

俊徳丸謡曲演義　北馬

千代曩姫七変化物語　北馬

陰陽妹背山　北斎

○高井蘭山

復讐那智白糸　北馬

水滸画傳第三輯　北斎

孝子嫩物語　北馬

星月夜顕晦録　（編迄北馬　続ゟ英泉）

○小枝繁　号絳山翁　文政酉頃

玉落穂　北斎画　十

東嫩錦　北斎画

柳之糸　北馬画

景清外伝　国直　十五

小栗外伝　北斎

寿重

新田功臣録　十冊　拾遺

木花草紙　北斎画

百合若埜居舊　北斎

橋供養　北斎

催馬楽奇談　北馬

松王物語　北斎

近江県物語

○芍薬亭長根　（初号[illegible]浅黄裏成）　姓菅原　下谷二長者町　本阿弥喜三次

國學鵺物語　一北斎

（擬東奇聞）濡衣草紙　北斎

雙蛺蝶（フタツてふ〳〵）白糸草紙　北斎

南仙笑楚満人　文化四年（三月九日卒葬　芝白金光道）

○東里山人　又鼻山人（二代目東里山人　下谷ニ[illegible]）　鼻山人下ニ

東風俗

於玉ヶ池

朝顔全傳

三曲廓日記

仇比三世物語　英泉

花街雀

松瀬美談此糸草紙　政信

蘭蝶記　三　英泉

金言餅　三　政信

契情意味張月　二　英泉

會之巻　二

妙庵記

白壁草紙（二編三ヲ　文閣画）

同後編（片　玉成）

玉菊全傳花街鑑

珍説豹の巻　政信

廓雑談　三（三ヲ　英泉）

風俗粋好傳　二　英泉

頭織肝粋志（五ニヲ　北斎）

篝花（古板　廓家下合刻）

花物語　十五

職気物語

廓意気地花節

生死流轉玉散袖

英泉

人情腹の巻（二編　四巻）

北里通　二　英泉

江[illegible]花[illegible]　二

二

三　英泉　四

五　政信

恐可志　二

燕脂紋（續編　紋花志）

花街桜

二葉草　和談假名論語

曽我八郎差込　壬午　[illegible]　文化五年　玉散里

合世鏡　金化[illegible]

○戊午　南仙笑楚満人　初三馬門人　三馬弟子

為永八犬伝に　舟の日　田舎源氏　廿五編　安政　[illegible]

後狂訓亭主人　為永春水（金[illegible]）　神田多町一丁目　鶴亭正輔

若貞高　金龍道人　大情翁

恵之花　梅暦

辰巳之園　英対暖語

梅見船　籬之梅

婦女八賢誌　園之花

明烏後正夢　五編　初編　[illegible]

月雪花寝覚之繰言　廿編

松の操物語　後編　[illegible]之廿弁

斬[illegible]娘八丈　四編

合[illegible]雪吉[illegible]　二三

春告鳥

八幡鐘　同拾遺　辰巳[illegible]

湊之花

朧月夜　五編ヨリ　四冊
假名佐話文庫　三編　三ヨリ
八重霞春夕映　四ヨリ
怪譚皿屋敷　二三ヨリ
芳夜寝物語一名新撰花衣
紅葉塚　二ヨリ
玉川晃　五ヨリ　英永　英泉
三人娘　四ヨリ　初　英泉
長者屋敷鑑　二三ヨリ　泉兆
桐之一葉
白糸草紙
女今川　三ヨリ　英泉
萩之花折

赤縄奇縁松の月　三ヨリ
藤枝戀情洲　二編ヨリ
園雪三勝草紙
通客言語傷文章　柳水人合作
日後緣
三日月絵草物語　二ヨリ
松遺之玉川　勝六
二三ヨリ　英泉　泉光
松竹梅重盃　二ヨリ
武蔵埜二夜話
菊之井双紙　三ヨリ　四冊
翁草
玉の枝　二ヨリ

艶之池屋　鶴文合作
傳家之花
娘七草
錦之里
初霞
袖之梅
千代之礎
松之調
糸柳
出世娘
肩見之花
女中番
夜井風呂

浮名瀧水　口上
其小唄
雪之梅
黄金菊
玉椿
玉苑
花名有嫁之磨
薫巻之紫
春雨日記

若州小浜ノ人
阿古義あふ後編
桃舎 椿設見蝶 [illegible]
一字 [illegible]

春字ノ人
春塘 号 津賀女
青莿 号 イヨウ [illegible] 春英
至訓 号 [illegible] 壮 [illegible]
狂 三日 号 ツキ [illegible] 春雅
仮名 号 サンヤ 芳 春里
狂雲 号 尾張一ノ宮 春嶺
仙東 号 サンヤホリ 春叟
一文字 号 新吉原 小梅 春水
狂 [illegible] 号 春路

東都八総 三編 [illegible]の跋文
黄金水大尽盃
為永春水作

劉亭訓 号 尾ノ一ノ宮 春柳
工訓 号ハ 市谷 [illegible] 春慶
狂一郎 号ハ 春暁
笑訓 号ハ キノリニバン 春友
狂文 号ハ [illegible] 春江
芳訓 号ハ 若 尾 春鶯
狂花 号ハ 尾ノ一ノ宮 春蝶

八文字屋自笑ハ 姓安藤氏 延享二年十一月十一日 [illegible]
一名 [illegible] 麩屋町の書肆八文字屋と [illegible] 大坂 [illegible] 所ニ [illegible]
自笑 [illegible]
[illegible]
曲亭 [illegible] ハ
[illegible]
[illegible]
其碩ハ 江 [illegible] 大佛 [illegible]
[illegible]
[illegible]

○瀧亭鯉丈へ　○[illegible]　○西[illegible]一風

霊験浮名瀧水　（其由人合作）　明烏後正夢　同上

艶油屋　同上　女小学

○岳亭定岡　号一老　姓八島

忠孝氷之川　自画　後編ハ深川交江

小伊勢物語　夏山画

○驛亭駒入

忠孝二面鏡　莫求　松の月　全盛語

八重霞　楚満人今化　萩の下二衣傳柵　同上

浴衣妻　同上

○曲山人

娘節用

霞紅筆

娘太平記

○松亭金水　名ハ定保　小梅堤下比新丘　中村源八

花ごよみ

娘色の糸

春雪月多情年の花

花の偽尾

いろは文庫

恋の染分

絞の朝顔

青楼譯談

[illegible]

孝猿奇

末摘花

廓の花笠

錦の袂

花の曙見之

恋の花染

錦の舞衣　以上鶴下和郎選

渡り鳥

艶姿の春駒

若柳草紙

○琴通舎英賀へ

赤坂御門内表傳馬町二丁目

米坂　正蔵

○五柳亭徳升　松井町二丁目　関根喜兵衛

小笹の雪　蒲子習画

○墨川亭雪麿

閨談春暦　二

咲替天朝顔日記

玉蘭
英泉
春色恋の花夜

新編女大舩

○六樹園宿屋飯盛　姓ハ石川名雅望

近江県物語　五冊

天羽衣

都のてぶり

[illegible]人のすさび

飛騨匠物語　六冊

醒[illegible]　二巻

[illegible]

○曼亭鬼武

天城錦　北馬

自来也説話　芍

○瀬川如皐

執情七本　狂言方

○一筆庵可候

人世栄枯招採初現

○晋米斎玉粒

玉川ノ手調布

撰因会賛文

与諸情混名撮掛（六錦 大巳 一万分四十五）

○東三十山

春の海らく此紙（一寿於風賦之）

かんよ[illegible]あつ見（[illegible]）

柳二揚風母（[illegible]）可佳

喜草山の根（[illegible]川[illegible]）

證帰堂[illegible]

頼書

鈴[illegible]　点印文

花[illegible]

為[illegible]

柳[illegible]

中文[illegible]

古[illegible]

柳[illegible]

柳[illegible]

右勝人

伊庭可笑（[illegible]）四谷[illegible]

[illegible]二十年

文化十年癸酉十二月　當七十九才

手物闘作

右ハ先年[illegible]有之
[illegible]中山[illegible]

横田氏ゟ申ニ付　擬定事記

右ニ為ニ致候得共[illegible]

圖注之儀ハ（昔ゟ有之）金子千本ヲ以[illegible]

富田氏ゟ其ヲ為代記伺書写

関書

桂花艶 二
閑嵐帰
伍大力
白命
習市家法
標客三解法

月住上　松風[illegible]男

三章外
鶴賀若　横井
時若
小扇[illegible]
竹賀[illegible]
一まのこりし

一[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

○いろう仙界　後編より稿完

耶弥語　（一手ゟ無回四冊）

瑞川咄　百五十冊　（四冊）

書付

○玉晴堂　尾張殿作者之ゞ

墨鹿　去ル七月　近江や清八

菊の露

○花山亭笑馬　二冊　一

以上ろう　萬屋藤四郎

角玉子　~~[illegible]佳雪今化~~

菖くら　（二編 芳亭）二篇亭佳雪今化

鶴の毛衣　二巻　門上

玉の緒二三

○石橋菴増井　弘化二年十二月廿四日

○青岡書　[illegible]　御分[illegible]

是空筆

高田之版　[illegible]

[illegible]

京大坂他所
悪林子見物　倉田屋見物　優之叙　柳浪
之文庫
画者
石山宝山門人並圖西玉山　若瑞安芸圃一勝斎之圃
岡田桃陰各川晴帆　松齋鶴山　こ気洲西之馬
東京暁之　化玉岳
丙寅季冬　服部七才
龍伏俵
二月　龍度